

## 令和3年度 自己評価結果

認定こども園土崎幼稚園

大変よい：A    よい：B    普通：C    一部検討を要する：D    改善を要する：E

評価項目	取組状況	評価
教育・保育目標について	建学の精神や教育目標について、園の目指す方向性は職員会議や園内研修等で大まかには話し合っているが、具体的なところまで掘り下げて話し合うことはしていない。保育者同士が教育・保育目標についてどのようなイメージをもっているかを出し合っていくことで目指す子どもの姿を共通理解を図っていく必要がある。	B°
指導について	子どもの実態に即した指導計画を作成していくことと、実践後の指導の改善に努めることに取り組んでいるが、環境を意識した指導方法や教材・教具の工夫については、保育教諭の考え方で評価に差がある。 日常的に設定している環境については、月案や週日案等で振り返りを行って環境づくりの工夫をしているが、まだまだ一人一人の子どもに合わせた遊びになっていない場合がある。	B°
教育週数・教育時間について	年度当初の計画に基づいて教育・保育を行うことができた。新型コロナウイルス（オミクロン株）感染防止のため自粛する子どももいたが、40週を確保することができた。	A
行事について	行事については、昨年の新型コロナウイルス感染防止対策をとって実施した経験を生かして、今年度は予定していた行事を実施することができた。特に保護者と一緒に行う活動については、密になるため実施できないものもあった。公園などへの園外保育として自主的に自然に関わり、気付く機会を多くしてきた。 コロナ流行のため今年も以前のような地域の訪問等は難しかったが、コロナ収束後には、学年に応じた地域活動になるように検討していかなければならないと考えている。	A
分掌・体制について	職務内容が明確で、協働しながら行うように努めた。職員体制としては仕事が一部に偏らないように配慮している。コロナの影響で仕事が増えてしまったところもあった。できるだけ一部の担当者に負担が多くかからないように配慮したい。	B°
運営について	職員会議や学年等での打ち合わせについては、時間を厳守して時間内に終わることができるように取り組んでいるが難しかった。決まっている内容は良いが、感染対策の周知等やその対応に関わる話し合いでは、終了時刻を守って終わることができなかった。また、話し合いの機会を設けることが難しく、紙面で伝達することもあった。	B
学年・学級経営について	今年度も昨年度同じく、新型コロナウイルス感染防止のため、密になることを避けた対応をしてきた。異年齢交流については限定的になった。観察記録については、記録を生かした環境づくりに繋がっていくような工夫をしていくことが大事だと考え、取り組んでいくようにする。	B

評価項目	取組状況	評価
保健・安全指導について	保健・安全については、月目標を設定して子どもたちにも意識できるように工夫している。今年もコロナ感染防止のため、保護者の協力を得て全園児がマスクを着用している。ヒヤリハットでは、同じ子どもが怪我をするので、繰り返し安全について伝えている。	A
園内研究・研修について	園内で公開保育を行い、もし自分だったらどんな関わりをするかを考える良い機会となった。園内での研修機会がなかなかもてないので、行事予定表の中に前もって入れて研修時間の確保していくことも考えていきたい。忙しい中でも保育や記録の取り方などについての研修も深めたい。	B
園外研究・研修について	園外の研究・研修については、オンライン研修がほとんどとなり参加することができた。設備環境が園で整いスムーズに研修に参加することができた。今後は対面式の研修ができることを願っている。	A
保育記録について	保育記録を毎日行っており、学級や学年間で情報を共有し、補助の先生たちからも記録をとってもらい、情報の共有に努めている。記録の取る時間の確保が難しいため、話合って記録する時間を決めて行っている。	B
安全管理について	遊具等は使用前に点検し、危険な場所や遊びについて気を付けることを指導をしている。これからも大きな怪我がないように気を付けていかなければならないと考えている。 今年是不審者対応の訓練を行ったが、いろいろな場面を想定しての訓練や預かり保育中の訓練も継続的に行っていきたい。対応の流れや役割を確認しておくことや子どもを守るために保育者の立ち位置にも共通理解を図っていく必要がある。	B <sup>o</sup>
学校間交流・連携について	オミクロン株の感染が子ども達にも広がり、今年度も小学校や保育園との交流や体験入学等を行うことができなかった。学校だよりの交換で情報を確認できる程度であった。これからも流行が収まらない限り難しいので、コロナ感染が収まった時には、交流を再開して連携していきたい。	B
家庭・地域社会との連携について	園からの便りや担任と保護者との情報交換は密に行われていること、他専門機関との連携を図っていることはこれからも進めていきたい。今年もコロナ感染の状況を判断して、保護者の方から園内に入って見てもらうため人数制限を行って実施してきた。3学期の参観日は感染が急拡大して中止せざるを得なかった。保護者と対面して話合う機会が少なくなり、子どもの様子を玄関先で手短かに伝えたり電話等で伝えたりしている状況にある。 また、園開放を行っても、在宅の子ども達は極めて少なく希望者がほとんどいないため、地域にある小規模園（連携園）に声をかけ、参加を呼びかけているところである。 「子育て相談」については個人面談を通して子どもの情報を共有し、家庭と協力し合って子育て支援を行っていく。	B